

演劇・映画の専門図書館

SHOCHIKU OTANI LIBRARY

公益
財団法人

松竹大谷図書館ニューズレター

■ No. 240(2018年3月) ■

平成30年3月9日発行

≫≫ 新着資料案内 新しく受入れた資料をご案内いたします

■ 松竹系 2月 演劇公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
歌舞伎座	『春駒祝高麗』				
	『一條大蔵譚 檜垣・奥殿』	○			
	『歌舞伎十八番の内 暫』	○			
	『井伊大老』	○		○	○
	『一谷嫩軍記 熊谷陣屋』	○			
	『壽三代歌舞伎賑 木挽町芝居前』	○			
	『仮名手本忠臣蔵 祇園一力茶屋の場』	○			
	延寿會			○	
新橋演舞場	『喜劇 有頂天一座』	○		○	○
	『夏花火 恋名残』			○	
松竹座 (大阪)	『泣いたらアカンで通天閣』	○		○	○
	春之輔改メ四代目桂春團治襲名披露公演			○	
	『喜劇 有頂天一座』	○		○	○
博多座	『磯異人館』	○			
	『於染久松色読販 お染の七役』	○		○	○
	『義経千本桜 渡海屋・大物浦』	○			
	『鯛賣戀曳網』	○			
大塚国際美術館	『GOEMON ロマネスク』	○		○	
中日劇場	『口上』				
	『藤娘』			○	
	『連獅子』	○			

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 他社演劇公演資料 ■

紀伊國屋ホール	1月	ラッパ屋『父の黒歴史』プログラム
紀伊國屋サザンシアター	1月	『TERRORテロ』プログラム
	2月	伊東四朗魔がさした記念コントライブ『死ぬか生きるか!』プログラム
吉祥寺シアター	2月	劇団民藝『神と人とのあいだ』プログラム
		オフィスコトーネプロデュース『夜、ナク、鳥』プログラム
国立劇場小劇場	1月	『邦楽鑑賞会 長唄の会・三曲の会』プログラム
		『民俗芸能公演 番楽』プログラム
コフレリオ新宿シアター	2月	鶴のトライアル『天はすべてを許し給う』プログラム
ザ・スズナリ	1月	流山児★事務所『オケハザマ』プログラム、台本
シアタークリエ	1月	『TENTH』プログラム
新国立劇場小劇場	1月	PARCO PRODUCE『Antigoneアンチゴーン』プログラム
	2月	新国立劇場演劇研修所公演『美しい日々』プログラム
日暮里d-倉庫	2月	Ammo『ノスタルギヤ』プログラム
東演パラータ	2月	劇団東演『臨時病室』プログラム

(新着資料案内 続き)

東京芸術劇場シアターイースト	2月	ハイバイ『ヒッキー・ソトニデテミターノ』プログラム
俳優座劇場	1月	劇団俳優座『いつもいつも君を憶ふ』プログラム、台本
本多劇場	2月	トム・プロジェクトプロデュース『シングァソング』プログラム
明治座	2月	『五木ひろし特別公演 特別出演坂本冬美』プログラム

■ 演劇雑誌 ■

『AAC』2018年Vol.95	『ラ・アルプ』2018年3月号
『Confetti』2018年MARCH	『演劇界』2018年4月号
『Confettiかわら本』2018年2月号	『喝采』2018年6月
『JPL』2018年Winter	『国立演芸場公演ガイド』平成30年3月号
『TICKETS GO!GO!』Vol.76	『大向う』平成30年3月号
『あぜくら』2018年2月号	『伝統文化新聞』2018年(141号)
『ふり おどりの空間』No.29	『日本芸術文化振興会ニュース』平成30年3月号
『ほうおう』2018年4月号	『日本照明家協会誌』2018年2月号
『シアターガイド』2018年4月号	『日本舞踊』70巻3月号
『ステージぴあ』2018年1+2月号	『悲劇喜劇』2018年3月号
『テアトロ』2018年3月号	『邦楽の友』平成30年3月号

■ 映画雑誌 ■

『FLIX』2018年4月号	『ドラマ』2018年3月号
『NFCカレンダー』2018年3月号	『ピクトアップ』2018年4月号
『SCREEN』2018年3月号	『映画テレビ技術』2018年2月号
『TVガイド』2018年2/16号,2/23号,3/2号,3/9号	『映画芸術』2018年冬号
『おとなのデジタルTVナビ』2018年4月号	『映画撮影』2018年No.216
『エキブ・ド・シネマ』2018年No.219	『映画時報』2018年2月号
『キネマ旬報』2018年3月上旬号,3月下旬映画業界決算特別号	『映画秘宝』2018年4月号
『ザ・テレビジョン』2018年2/16号,2/23号,3/2号,3/9号	『衛星劇場プログラムガイド』2018年3月号
『シナリオ』2018年4月号	『日経エンタテインメント!』2018年2月号
『シナリオ教室』2018年3月号	『日本アカデミー賞協会会報』82号
	『芸術学研究』2017年27号

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『劇場版 ウルトラマンジード つなぐぜ!願い!!』	○				
『しあわせの絵の具 愛を描く人 モード・ルイス』	○				

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 映画プログラム ■

『今夜、ロマンス劇場で』	『あなたの旅立ち、綴ります』	『15時17分、パリ行き』
『劇場版 Infinite Force ガッチャマン さらば友よ』	『伊藤くん A to E』	『ジャコメッティ 最後の肖像』
『ネイビーシールズ ナチスの金塊を奪還せよ!』	『ザ・リング リバース』	『祈りの幕が下りる時』
『嘘を愛する女』	『デトロイト』	『CINEMA FIGHTERS』
『風の色』	『ロング、ロングバケーション』	『映画 妖怪ウォッチ シャドウサイド 鬼王の復活』
『不能犯』	『羊の木』	『カンフー・ヨガ』
『リバーズ・エッジ』	『映画 妖怪ウォッチ シャドウサイド 鬼王の復活』	『スター・ウォーズ 最後のジェダイ』
『マンハント』	『グレイテスト・ショーマン』	『RAW 少女のめざめ』
『フラットライナーズ』	『未成年だけどコドモじゃない』	『キングスマン:ゴールデン・サークル』
『パディントン2』	『嘘八百』	
『ナオト・インティライミ冒険記 旅歌ダイアリー2 後編』		

≫≫ 新規登録資料案内 新しく登録した資料をご案内いたします

■ 書 籍 ■

『普通の生活 みーんな、それなりにビョーキ』	天衣織女（著）	劇団青い鳥
『風流深川唄 新派朗読劇脚本集ⅠⅡ』	成瀬芳一（編）	青蛙房
『ソウル市民』	平田オリザ（著）	演劇ぶっく社
『乙女のための歌舞伎手帖』		河出書房新社
『やさしい歌舞伎 一生モノの基礎知識』清水まり（監修）、千駄キャサリン（執筆）、白川蟻ん（漫画・イラスト）朝日新聞出版		
『魅力満載！一番わかりやすい歌舞伎イラスト読本』	辻和子（著）	実業之日本社
『名優の食卓』	大島幸久（著）	演劇出版社
『八代目市川団十郎画像資料集Ⅰ』	中村恵美（著）	私家版（中村恵美）
『中村翫雀改め四代目中村鴈治郎襲名披露』		松竹
『坂東三津五郎 粹な城めぐり』坂東三津五郎・10世（著）角川マガジズ（発行）、角川グループパブリッシング（発売）		
『入選作品集 平成二十七・二十八年度』	国立劇場制作部歌舞伎課（編）	日本芸術文化振興会
『全国映画資料館録 2015』東京国立近代美術館フィルムセンター（編）	国立美術館＋東京国立近代美術館	
『日本劇映画作品目録 平成28年』		日本映画製作者連盟
『キネマ旬報ベスト・テン90回全史1924→2016』		キネマ旬報社
『長野のまちと映画館 120年とその未来』	小林竜太郎（著）	光竜堂
『KOREAN CINEMA 2016』		Korean Film Council

資料をご寄贈くださった方々（敬称略・順不同／2017年12月～2018年1月）

※許可を得た方のみ掲載しております

松竹株式会社、松竹ブロードキャスティング株式会社、(株)マルヨンプロダクション「シナリオ」編集部、シナリオ・センター、博多座、阪急文化財団、武蔵国分寺跡資料館、演劇出版社、キネマ旬報社、劇団四季、株式会社日本舞踊社、愛知芸術文化センター、一般社団法人日本演出者協会、文学座、企業メセナ協議会、デアゴスティーニ・ジャパン、銀座 博品館劇場、日本劇作家協会、国立劇場、関西・歌舞伎を愛する会、劇団民藝、公益社団法人日本俳優協会、株式会社アサツー・ディー・ケイ、玉川大学教育博物館、日本映画テレビ技術協会、丸善出版株式会社、日本シナリオ作家協会、独立行政法人日本芸術文化振興会国立文楽劇場、東宝株式会社、黒澤明研究会会誌、一般社団法人日本民間放送連盟、ロングランプランニング株式会社、宮内和行、シアタークリエ、株式会社カモミール社テアトロ編集部、産経新聞出版、山口博哉、フィルムセンター、岩波ホール、伝統文化新聞、筑波大学出版会、劇団俳優座、株式会社サンシャイン劇場、公益社団法人日本照明家協会、公益社団法人日本演劇興行協会、(株)近代映画社、(有)三月書房、新歌舞伎座、アロープロモーション、東京都江戸東京博物館、帝国劇場、銀座百店会、四季株式会社、おもだか会、安孫子正、有限会社合同通信社、若林さだ吉、邦楽の友社、東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）、ポーラ文化研究所、博物館明治村、前進座、関西常磐津協会、『天竺渡海道中記』刊行会、公益財団法人ユニジャパン東京国際映画祭事務局、一般社団法人 日本劇場技術者連盟、名古屋芸能文化会、人形劇団プーク、日本ウニマ（国際人形劇連盟）、劇団青年座、無声映画鑑賞会、日本近代文学館、世田谷文学館、日本映画テレビプロデューサー協会、紀伊国屋ホール、明治座、玉川大学出版部、新国立劇場情報センター、一般社団法人長唄協会、社団法人日本演劇協会、公益財団法人 劇場演出空間技術協会、関口フミ子、児童・青少年演劇ジャーナル「げき」編集委員会、劇団銅鑼、劇団SCOT

どうもありがとうございました

デジタル映画の保存と活用に関する技術セミナー（2017年度） セミナー2：映画関連資料のデジタル化に関するセミナー 事例紹介：『資料デジタル化の事例～松竹大谷図書館～』

日 時：2018年2月27日

会 場：東京国立近代美術館フィルムセンター小ホール

事例発表者：武藤祥子（2月27日）

参加者：井川繭子（2月23・27日）



東京国立近代美術館フィルムセンターで2月23日(金)と27日(火)の2日間にわたって、デジタル映画の保存と活用に関するセミナーが開催された。これは、フィルムセンターが2014年より継続して行っている文化庁の補助対象事業「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業」(別名 BDC プロジェクト)の一環で、今回は参加対象を映画関係機関に限定し、業務の中で実践している内容について情報共有するという目的で行われたが、当館も27日に事例紹介の依頼を受けて発表してきた。

セミナー1日目はテーマを「映画・映像データ管理の実際」として、主に映像作品のデジタル化とそれに伴う諸問題について、福岡市総合図書館の松本圭二氏、アニメなどの映像制作会社プロダクション・アイジーの山川道子氏、フィルムセンターの岡本直佐氏より事例紹介があった。

セミナー2日目のテーマは「映画関連資料のデジタル化に関するセミナー」で、映画にまつわるさまざまな関連資料のデジタル化について事例紹介と講義が行われた。事例紹介は1日目に引き続いてプロダクション・アイジーの山川道子氏、早稲田大学演劇博物館の土屋紳一氏、そして当館より武藤祥子が報告を行った。

当館の事例報告では、クラウドファンディングでデジタル化やアーカイブ構築の費用を募集し、立命館大学アート・リサーチセンターへ委託してデジタルアーカイブを公開するという流れを紹介した。デジタル化の予算確保が難しい機関や、公開のシステム等を持っていない機関でも、デジタルアーカイブを公開する手段がある、という事で、技術的な面とはまた違うデジタル化の道を示すことが出来たのではないかと思う。

事例紹介の前後には、株式会社インフォーマージュの綿引雅俊氏を講師に迎えて、デジタル化の目的や資料特性に応じた技術事項、作業工程の解説などを専門家の立場から解説していただいた。中でも作成する画像の品質基準を決定する要素として解像度やカラーマネジメント、保存するファイルのフォーマットなどについて、最新の情報に基づいて比較し説明して下さったのはとても有難かった。



各機関とも撮影やスキャンなどによるデジタル化を実施するうちに、ある程度経験を蓄積し事例が集約できるようになってきて、ここ数年のうちにそろそろガイドラインや手引書を作成しようという動きが出てきたようである。フィルムセンターの BDC プロジェクトも調査研究成果として、今春には映画関連資料のデジタル化手引書の作成を計画しているとのことなので、当館でも是非参考にしたいと大いに期待している。

立命館大学ARC 文部科学省 共同利用・共同研究拠点 「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」2017年度 成果発表会参加報告

2018年2月24日 発表者：武藤祥子



立命館大学アート・リサーチセンター(以下ARCという)では、2014年より文部科学省共同利用・共同研究拠点に認定されたことを受けて、日本文化の有形・無形文化財のデジタル・アーカイブを研究テーマとする共同研究を募集した。当館はこのうち個別テーマ設定型の共同研究プロジェクトに2014年度より採択され、4年目となった2017年度からは、「**演劇上演記録データベースを活用した、演劇資料画像検索閲覧システムの構築に関する研究**」という研究課題で、引き続き活動を行っている。この共同研究拠点プロジェクトの2017年度成果発表会が、2017年2月23日(金)から24日(土)にかけ、京都の立命館大学衣笠キャンパス内にあるARCで、各プロジェクトの研究代表者により行われ、当館は2日目の2月24日に、成果報告を行ってきた。

このプロジェクトで、当館が行っている「**演劇上演記録データベースを活用した、演劇資料画像検索閲覧システムの構築に関する研究**」という研究は、当館が管理している**演劇上演記録**のデータのうち過去の記録のデータを、より精緻な内容にするとともに、資料アーカイブのメタデータとして活用していく活動のことである。

当館では昭和33年の開館以来、演劇資料の整理の基礎となる「上演情報」つまり「何の演目が、何年何月どここの劇場で上演されたか」という情報を管理するため、主に明治初年から戦前までの東京の記録と、戦後の各地の大劇場、そして東京の小劇場の公演の記録を「**演劇上演記録**」として蓄積してきた。開館から平成12年までは、カード式で管理してきたが、平成13年からは、立命館大学の赤間先生にご協力いただきデータでの管理をはじめた。また平成12年まで蓄積したカード式の演劇上演記録については、約11年前に全てのカードを画像に取り込み、この画像を基に「タイトル」「上演年月」「劇場」などの基本データの入力を完了させている。本研究では、この基本データの不完全な情報について、例えば「興行名」や「スタッフ」、「初日」や「千秋楽」などの情報を、劇場プログラムや劇場の公式記録などの資料を典拠に、考証を進めて追加していくことでデータの精度を上げ、演劇に関する研究や資料整理の基礎となる上演記録データ・ベースを構築することを目的としている。

考証作業は一次資料であり、チラシやポスターに比べ、興行初日に近い日程に発行される劇場プログラムを典拠とする事が多いので、効率よく進めるため、基本的には劇場別に行く。今期は俳優座劇場の考証作業が秋に終了し、続いて紀伊國屋ホールプログラムを典拠とし、データの追加を行っている。同時に当館が所蔵する合本で約300冊に及ぶ各劇場で催された舞踊会のプログラムを網羅的に入力する作業を、2015年度から継続して進めている。上演年月、劇場、興行名(会名)、主催者など最低限のデータを入力したデータを追加するようにし、舞踊会の資料を探す際に、よく利用されるキーワードで検索が出来るようにした。また、歌舞伎俳優が出演している舞踊興行については、出演演目名でデータを追加し、歌舞伎俳優の出演記録に漏れが無いようにしている。今期は、ようやく昭和時代の入力を終えそうなところまで作業を進める事ができた。以上この2つの流れの考証作業は次年度も続く予定である。

最後にARCの協力の元、当館が進めている所蔵資料のデジタルアーカイブの公開について、【[芝居番付検索閲覧システム](#)】【[組上燈籠絵検索閲覧システム](#)】の今期の成果を報告した。「芝居番付検索閲覧システム」は2015年1月15日にアーカイブを初公開したが、昨年2017年10月2日にデータを2,343件追加し、著作権保護期間が終了した5,588件の公開が完了した。また、2017年10月20日には「[組上燈籠絵検索閲覧システム](#)」を公開し当館が所蔵する161枚の組上燈籠絵を全て閲覧できるようにした。上記2つのアーカイブは、いずれもデジタル化の費用をクラウドファンディングで募集し、アーカイブの構築・Web公開・運用をARCに委託したものである。費用も技術も持たない当館が、資料のデジタル化からアーカイブの運用までを実行できたのは、クラウドファンディングの支援者・協力者と、ARCの協力があったの事である。この恩恵を受け、より資料の活用を促進するのが、当館の使命である。今後もより積極的な資料の活用を進めるため、演劇に関する研究や資料整理の基礎となる演劇上演記録データ・ベースの充実をはかっていきたい。

第 69 回展示 「明治 150 年—慶応 4 年から明治元年へ—」 展

展示期間：2018 年 2/23～4/25
於 閲覧室

2018 年は、1868 年の明治元年より数えて 150 年にあたります。この節目となる年に、3 月新橋演舞場では「江戸城無血開城」を題材とした三谷幸喜の新作喜劇『江戸は燃えているか』が、4 月の歌舞伎座では、「明治百五十年記念」として『江戸城総攻』三部作を基にした『西郷と勝』が上演されます。

この上演に関連して、今回は所蔵資料から、慶応から明治にかわる激動の時代を描いた芝居や映画をとりあげます。鳥羽伏見の戦いから江戸城無血開城、戊辰戦争、箱館戦争と、明治がまさに始まった、1868 年の出来事に関する様々な資料を展示します。

【展示資料一覧】

映画『赤毛』台本／昭和 44[1969]年三船プロダクション/監督+脚本:岡本喜八/脚本:広沢栄/主な出演:三船敏郎(赤毛の権三),岩下志麻(トミ),田村高廣(相楽総三)/主人公赤毛の権三は赤報隊の隊士。赤報隊は新政府軍の部隊。百姓に年貢半減を布告したが、後に偽官軍とみなされ、隊長の相楽総三などが処刑されてしまう。

映画『大東京誕生 大江戸の鐘』スチール写真／昭和 33[1958]年松竹京都/監督:大曾根辰保/脚本:猪俣勝人+岸生朗+柴英三郎/主な出演:高田浩吉(勝海舟),島田正吾(西郷隆盛),芥川比呂志(将軍慶喜),近衛十四郎(新門辰五郎),山形勲(榎本武揚),8 代目松本幸四郎=初代松本白鸚(小栗上野介)/鳥羽伏見の戦いより箱館戦争終結までの日本の歴史的な転換期を壮大なスケールで描いた松竹時代劇三十五周年記念の大作映画。

映画『江戸の夕映』スチール写真／昭和 29[1954]年松竹京都/監督:中村登/脚色:久板栄二郎/原作:大佛次郎/主な出演:9 代目市川海老蔵=11 代目市川團十郎(旗本本田小六),2 代目尾上松緑(旗本堂前大吉)/上野で彰義隊が鎮圧された慶応 4[1868]年 5 月より、明治 2[1869]年に箱館五稜郭が落ちるまでの激動期を舞台に、時代の波に翻弄される二人の旗本の姿を描いた作品。



映画『赤毛』台本

■歌舞伎『江戸城総攻』1868 年の江戸城明け渡しを題材とした三部作。第一部『江戸城総攻』、第二部『慶喜命乞』、第三部『将軍江戸を去る』から成る■

歌舞伎『江戸城総攻 麟太郎と吉之助』スチール写真／平成 12[2000]年 3 月歌舞伎座/作:真山青果/演出:真山美保/主な出演:12 代目市川團十郎(西郷吉之助),9 代目松本幸四郎=2 代目松本白鸚(勝安房守麟太郎)

歌舞伎『慶喜命乞』スチール写真／平成 7 年[1995]年 7 月歌舞伎座/作:真山青果/演出:真山美保/主な出演:4 代目市川段四郎(西郷吉之助),初代市川右近=3 代目市川右團次(山岡鉄太郎)

歌舞伎『将軍江戸を去る』スチール写真／平成 7[1995]年 12 月歌舞伎座/作:真山青果/演出:真山美保/主な出演:4 代目中村梅玉(徳川慶喜),5 代目中村富十郎(山岡鉄太郎)

歌舞伎『江戸城総攻』プログラム／大正 15[1926]年 11 月歌舞伎座/作:真山青果/主な出演:2 代目市川左團次(勝安房守),2 代目市川猿之助=初代市川猿翁(山岡鉄太郎)/第一部『江戸城総攻』が初めて上演されたときのプログラム。第二部は昭和 8[1933]年 11 月、第三部は昭和 9[1934]年 1 月に、共に東京劇場にてそれぞれ初演。



歌舞伎座プログラム(歌舞伎『江戸城総攻』)大正 15[1926]年 11 月

歌舞伎『白虎隊』スチール写真／昭和 16[1941]年 7 月歌舞伎座/作:岡本綺堂/主な出演:3 代目尾上菊之助=7 代目尾上梅幸(白虎隊白河千太郎),4 代目中村村太郎=7 代目中村芝翫(白虎隊白河萬次郎),2 代目尾上松緑(白虎隊瀧澤七之丞)/戊辰戦争での白虎隊の苦闘を舞台化。白虎隊は 16-17 歳の少年達から成る会津藩の部隊。

映画『花の白虎隊』台本／昭和 29[1954]年大映京都/監督:田坂勝彦/脚本:八尋不二/主な出演:市川雷蔵(篠原準之助),花柳武始(池上仙吉)/時代劇スター市川雷蔵が、白虎隊の隊士に扮した作品で、これが映画デビュー作。

映画『花の白虎隊』台本
タイトルが鉛筆書きで変更されている



■歌舞伎『血笑記』会津藩が降伏開城した9月22日、長州藩の捕虜となった同志8名を次々と処刑し、ついには発狂してしまう会津藩士の姿を描いた作品■

歌舞伎『落城秘聞 血笑記』スチール写真／昭和4[1929]年7月歌舞伎座/作:真山青果/主な出演:6代目尾上菊五郎(鎌柄源内),4代目市川男女蔵=3代目市川左團次(島村他吉)/初演時のスチール写真

歌舞伎『会津落城秘聞 血笑記』スチール写真／昭和58[1983]年9月歌舞伎座/作:真山青果/演出:真山美保/主な出演:5代目中村勘九郎=18代目中村勘三郎(鎌柄源内),島村他吉(5代目坂東八十助=10代目坂東三津五郎)

新国劇『白野辨十郎』スチール写真／[上演年月日及び劇場不明]/原作:エドモン・ロスタン/訳:楠山正雄/翻案:額田六福/主な出演:島田正吾(白野辨十郎)/『シラノ・ド・ベルジュラック』を新国劇の創設者澤田正二郎が日本に舞台を置き換え翻案脚色した。白野辨十郎は18-35歳の男子で編成された会津藩の主力部隊である朱雀隊の隊士という設定。

TVドラマ『河井継之助 駆け抜けた蒼龍』台本／平成17[2005]年12月27日日本テレビ放送/演出:松原信吾/脚本:金子成人/主な出演:18代目中村勘三郎(河井継之助),唐沢寿明(坂本竜馬),2代目中村獅童(岩村精一郎)/河井継之助は越後長岡藩家老。慶応4[1868]年5月に起こった北越戦争で自ら陣頭指揮に立ち新政府軍と戦う。

歌舞伎『相馬の金さん』スチール写真／昭和9[1934]年3月明治座/作:岡本綺堂/主な出演:2代目市川左團次(御家人相馬金次郎),6代目市川寿美蔵=3代目市川寿海(金次郎弟半三郎)/実在した江戸の御家人相馬金次郎を主役に岡本綺堂が戯曲化した作品。相馬金次郎は江戸幕府が瓦解した後、彰義隊に入隊した。彰義隊は、鳥羽伏見の戦いの後、将軍慶喜の警護と江戸の警備を名目に結成された。江戸城無血開城に不満を持つ旧幕臣や彰義隊などが上野に結集し抵抗したが、新政府軍が1日で制圧。

映画『合葬』プログラム／平成27[2015]年「合葬」製作委員会/監督:小林達夫/脚本:渡辺あや/原作:杉浦日向子/主な出演:柳楽優弥(秋津極),瀬戸康史(吉森柁之助),岡山天音(福原悌二郎)/彰義隊に入隊し、激動の時期を生きた三人の青年の物語。

演劇『五稜郭血書』プログラム／昭和27[1952]年12月新橋演舞場/作+演出:久保栄/主な出演:滝沢修(榎本武揚),宇野重吉(平山金十郎)/劇団民藝による箱館戦争をとりあげた歴史劇。箱館戦争は榎本武揚や土方歳三率いる旧幕府軍と新政府軍の最後の戦闘。五稜郭は旧幕府軍の拠点となった。

演劇『五稜郭恋歌』スチール写真／平成2[1990]年11月新橋演舞場/作:小野田勇/演出:三木のり平/主な出演:三田佳子(花乃家小えん),近藤正臣(土方歳三)/江戸城無血開城から箱館戦争終結までを舞台に、土方歳三と芸者小えんの恋を描いた物語。

歌舞伎『三姉妹』スチール写真／昭和43[1968]年11月国立劇場/作:大佛次郎/演出:千田是也/主な出演:8代目松本幸四郎=初代松本白鸚(永井采女),3代目市川猿之助=2代目市川猿翁(青江金五郎)/明治百年記念芸術祭特別公演として上演された。旗本の二つの家族を中心に幕末を生きる人々を描いた。前年のNHKドラマを歌舞伎化した。

映画『壬生義士伝』プログラム／平成14[2002]年松竹+テレビ東京+テレビ大阪+電通+衛星劇場+カルチュア・パブリシャーズ+アイ・ビー・シー岩手放送/監督:滝田洋二郎/脚本:中島丈博/原作:浅田次郎/主な出演:中井貴一(吉村貫一郎),佐藤浩市(斎藤一)/盛岡南部藩を脱藩して新選組に参加した吉村貫一郎の物語。明治まで生きた新選組隊士斎藤一が回想する形で描かれた作品。



新橋演舞場プログラム
(演劇『五稜郭血書』)
昭和27[1952]年12月

≫ お知らせ

「筋書でみる歌舞伎座 130 年」の連載が始まりました！

歌舞伎座の筋書の読み物として、3月公演より当館の所蔵資料を紹介する「筋書でみる歌舞伎座 130 年」という連載が始まります。これは明治22(1889)年に開場した歌舞伎座が130年を迎えるにあたり、その歴史を当館所蔵の資料で振り返ってみようという図版を中心としたページです。当館の資料を、歌舞伎座の観客の方に歌舞伎座の筋書でお見せ出来るという、非常に喜ばしい企画です。歌舞伎座でのご観劇の際は、ぜひこの「筋書でみる歌舞伎座 130 年」の連載をご覧ください。

■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 現在ご支援いただいている方々（了承を得た方のみ掲載）

2018（平成30）年2月にご支援いただきました

法人・団体（50音順・敬称略）

株式会社歌舞伎座

歌舞伎座サービス株式会社

歌舞伎座舞台株式会社

有限会社合同通信社

松竹株式会社

松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター

松竹音楽出版株式会社

松竹芸能株式会社

株式会社松竹サービスネットワーク

松竹ブロードキャスティング株式会社

株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

どうもありがとうございます



■ 編集後記 ■
 ▼3月に入りまして、おひな祭りに可愛いらしいケーキとお菓子をいただきました。スタッフ皆で大変おいしくいただきました。ここところ不安定な天気が続きますが、時折感じられる日差しの暖かさに、春が近づいていることを実感します。休館明けの3月19日には、もっと春めいているかと思えます。皆さまのご来館をお待ちしております。

■ 春期特別整理休館のお知らせ ■

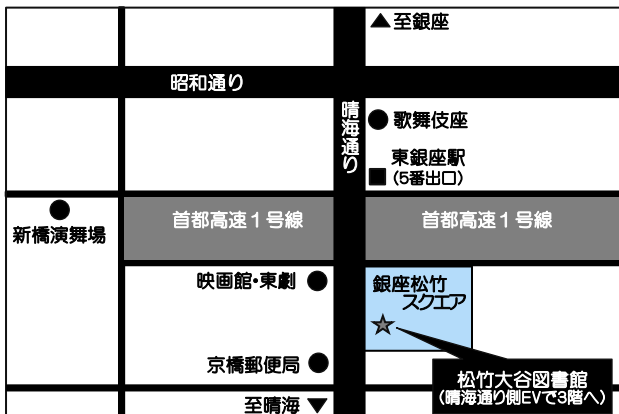
平成30年3月3日（土）より

3月18日（日）まで

資料整理のため休館いたします。

3月19日（月）より

通常通り開館いたします。



● 利用案内 ●
開館時間
 平日午前10時～午後5時
休館日
 土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期夏期特別整理期間
 ※その他、臨時休館のある場合は一ヶ月前から館内およびWebサイトに掲示します。
入館料 無料
閲覧 館内閲覧のみ
● 交通案内 ●
 東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分
 東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分

編集・発行 公益財団法人 松竹大谷図書館

〒104-0045 東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア3階 / Tel 03-5550-1694

公式 HP ● <http://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>

公式 Facebook ● <https://www.facebook.com/Shochikuotanitoshokan/>